



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

赤鬼の春II文 61

激闘のセンバツを終えて

選手のコメント紹介④

9 宇野圭一郎君

宇野圭一郎君(2-6)は初めての甲子園でのプレーについて「どの球場でも味わえない雰囲気だった。あんなにたくさんの人たちが見ているなかで野球をすることができたのは自分にとってとても良い経験になった」と感想を寄せた。宇野君は秋季大会では2番を打つことが多かったが1番打者に起用されたことについて「出塁率の高さを評価されて1番打者にさせてもらった。だが慶応高校戦では一本もヒットが出ず、1番打者の難しさを痛感した」とコメントした。

「甲子園での赤いアルプスについて「あの応援団がいたからこそ一勝でき、花巻東と接戦になったと思う。自分の応援歌が流れたときはとてもモチベーションが上がったが打てなかったときの申し訳なさな大きかった」と感謝を表しながらも悔しさをにじませた。このセンバツを通して「粘りが以前から後半勝負に強くなるチームになるぞ、ということをおっしゃっていた。そのようなチームに少し近づいてきていると思う」と手ごたえを話した。最後に「絶対に夏の甲子園に出る。チームを勢いづけるような1番打者になりたい。見つかった課題を一つずつ潰して夏に自分たちの最高の形で迎えられるように頑張りたい」と意欲を見せた。

10 原功征君

「どちらの試合も接戦に持ち込めたからチームとしてやることはできていたと思う」

と上々の評価をしたのは原功征君(2-8)。

3回戦の花巻東高校戦では「増居のピッチングが良くノーヒットノーランの記録も迫っていた。自分が代打として出たときに攻撃の起点になればと思ったが、三振になってしまった。夏に向けて全力でバッティング力を強化するために打ち込んでいきたい」と前を見据えていた。原君は任された代打で打てなかったことを課題に挙げ、「投げる機会はなかったが、次は村中先生にピッチャーとして信頼してもらえるように練習したい」と意気込んだ。

今後の練習について「ピッチング・バッティングのレベルアップをしていかないといけない。次こそは自分も試合に出て活躍したいので心も体も強くしていく」と声を張った。原君は「甲子園で達成できなかった二勝を目指す。今回は甲子園で投げられなかったのでマウンドに立ってプレーしたい」と締めくくった。

11 北村駿君

北村駿君(2-5)は3回

戦の花巻東高校戦を「良いピッチングだったが攻撃はイマイチだった。ここ一番の集中力があるはずなのにチャンスで打てなかった。」と厳しめに評価した。このセンバツで見つかった課題として自分の甘さを挙げ、「しっかりとしなければならぬという気持ちで薄かった。一人ひとりが大人な人間になれば、さまざまな面で有利になれるので人として成長していきたい」と決意した。また「普段から応援されていることを意識する。見られていと思うと、ふさわしくない姿は見せられなくなるはずだ。目を配りたい」と語気を強めた。

北村君は主務として「村中先生との意思疎通が難しかった。指示を一人ひとりに伝えることも難しかった」と苦労を打ち明けた。またサポートしたことについては「体調が優れていなかったり疲労がたまっていたりすると練習しても意味がないので、選手の視線で感じたことを村中先生に伝えていた」と答えた。最後に「春は近江高校に勝って優勝し、近畿大会に行きたい。夏も甲子園に行きたい。元氣ハツラツと野球を楽しみたい」と目標を掲げた。